

# シンポジウム

## 兵庫県がん教育総合支援事業 ～洲本市立加茂小学校の実践報告～

兵庫県教育委員会事務局体育保健課  
指導主事 栗山 尚子



### 兵庫県がん教育に関する計画

- (1) がん教育に関する協議会の開催  
→ 今後のがん教育の進め方を検討
- (2) モデル校によるがん教育講演会の実施  
→ がんに関する授業及び講演会を実施
- (3) 教職員・外部講師対象の研修会の実施  
→ モデル校の実践も研修会で発表
- (4) がん教育の指導内容・方法の検討  
→ 学校におけるがん教育の進め方を検討

3

## はじめに

[兵庫県がん教育総合支援事業の趣旨]

がん教育の推進体制の構築を図ることにより



がんに対する正しい知識、がん患者  
への正しい理解、自他の健康と命の  
大切さに対する認識の深化を図る

がん予防や早期発見に  
つながる行動変容



がんと共に生きる社会づくりに  
寄与する資質や能力の育成

2

### 各校種段階でのがん教育の目標

- 健康教育の一環として行う。
- 児童生徒の発達段階を考慮する。
- 学校の教育活動全体を通じて適切に行う。
- 保健・保健体育・特別活動・総合的な学習の時間等で実施する。

【小学校】生命がかけがえのないものであることを知り、今ある命を大切にして精一杯生きようとする心情を育てることを目標に授業を行う。

【中学校】がんについて関心をもち、がんの疾病概念や予防等について正しい知識と、自ら健康的な生活を実践しようとする態度を身につけることを目標に授業を行う。

【高等学校】がんについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項及び、それらと生活のかかわりを理解することを目標に授業を行う。

4

## モデル校における検討課題

### (1)授業時間の確保

⇒どこの学校でも実施可能な取組を  
モデル校で検討

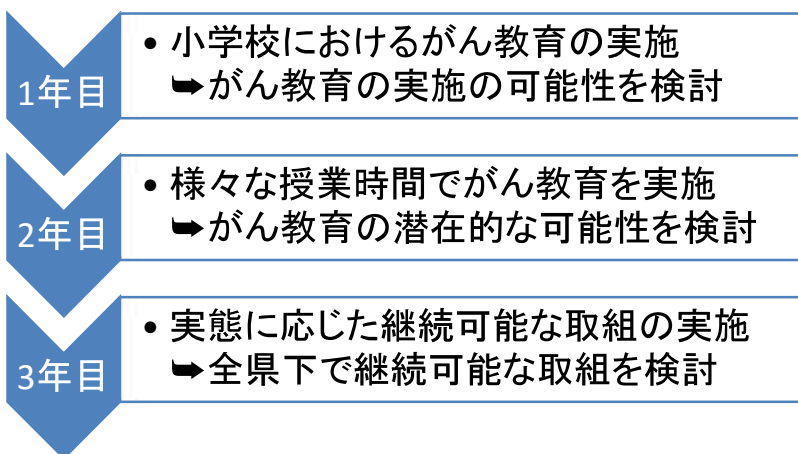
### (2)配慮すべき児童生徒への対応

⇒がん教育の実施前に把握・対応

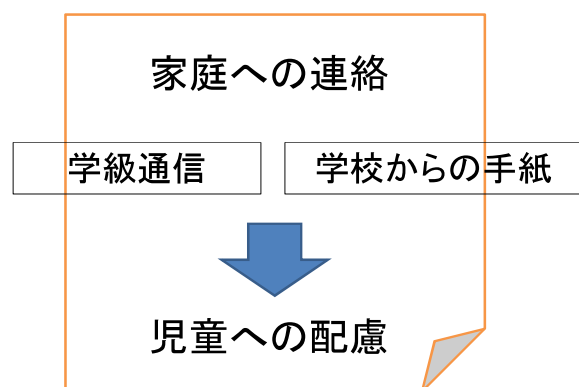
### (3)発達段階に応じた内容

⇒協議会で外部講師向け教材を  
作成し、モデル校でも活用

## 平成30年度～令和2年度の流れ



## 家庭への連絡と児童への配慮



学級会や学級通信で、  
配慮が必要な児童がいるか確認

## 平成30年度 1年目の取組

### ○外部講師による講演会の実施

兵庫県立淡路医療センター  
呼吸器外科部長 松岡 英仁 氏

### ○体育科を中心とした授業

体育科保健領域「病気の予防」  
6 学年担任 高田 直矢 教諭

### ○児童保健委員会による全校集会

## 外部講師による講演会



講演内容：学校における  
がん教育の推進  
参加者：6年生児童、保護  
者、  
教職員

- ・ がんの基礎知識
- ・ がん患者のお話
- ・ 質疑応答

### 外部講師との連絡調整

1. 事業及び目的の説明
2. 学校における授業内容の詳しい説明
3. 講演していただく時間や内容の指定



## 講演後の感想

- ・ がんはどんどん増え続けることやいろいろなことを知れた
- ・ 早期発見や正しい生活習慣を心がけることによって予防することができる
- ・ がんになった人に偏見せずに接したい
- ・ がんになってもふだんのように楽しく過ごせることがわかったので、すごく安心した
- ・ 近所のおじいさんやおばあさんたちにがん検診をすすめるなどの自分ができることはやってみようと思う
- ・ 自分ががんになった時、周りにがんの人がいる時などに生かしたい。

・ がんに対する正しい知識  
・ がん患者への正しい理解  
・ 自他の健康に対する認識の深化

- ・ がんでおじさんが死んだので、あまりがんとは関わりたくなかったけど、将来は考えていかないとだめだなと思った
- ・ 将来、できるだけたばこやお酒をあまりのまないようにしようと思う
- ・ がんは「絶対にうつらない」と言っていたけど、うつるがんもあると聞いたことがあるのでいろいろ調べたい
- ・ 早期発見をすると、だいたい治るらしいのですが、やっぱり定期検診に行くのはめんどくさいと思った

・ がん予防や早期発見の行動変容につながる意見  
・ 個人のレベルに応じた成果が見られた

## 児童保健委員会による全校集会



最後に、みんなに必要なのはハート！思いやりの心を持つこと、命を大切にすることだよ。がんになっている人と出会ったら、自分にできることがないか探してお手伝いしよう。それから、大切な家族ががんにならないように、「がん検診」をよびかけるんだよ。周りの人の命、自分の命は大切なものだ。

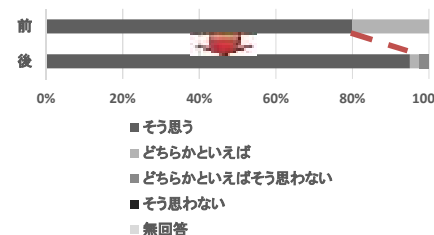


正解は、しょからい食べ物なんだよ。塩分をたくさん摂り過ぎると、胃がんになりやすいんだ。★好き嫌いせずに、何でも食べよう！

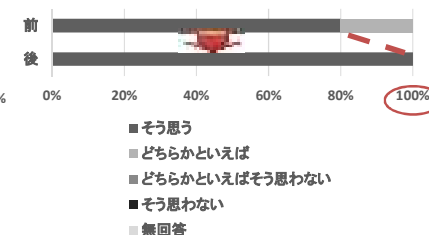


## 実施後の変容(アンケート結果より)

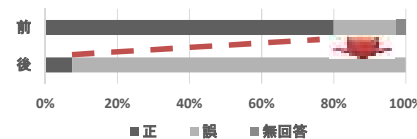
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



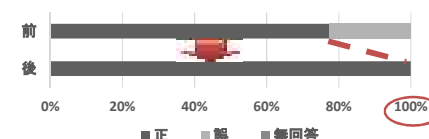
がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ



がんは日本人の死因の第2位である



早期発見すれば、がんは治りやすい



## 令和元年度 2年目の取組

### ○外部講師による講演会の実施

- ① 兵庫県立淡路医療センター  
呼吸器外科部長 松岡 英仁 氏  
講演内容：学校におけるがん教育の推進  
参加者：6年生児童、保護者、教職員



- ② NPO法人ホームホスピス淡路島 理事長 山本 美奈子 氏  
講演内容：“がん”のことをして、命を大切に  
参加者：6年生児童、教職員



### ○教育活動全体でがん教育の実施

コーディネーター 奥井 美穂 養護教諭

- ① 総合的な学習の時間:グループワーク
- ② 特別の教科 道徳:がんになって「生きる」
- ③ 体育科保健領域「病気の予防」

13

## 教育活動全体でがん教育の実施

講演会後のグループワーク

がんって  
どんな病気？

がんになら  
ないために  
はどうした  
らいいの？



がん患者やまわりの人はど  
んな生活をしているだろう



特別の教科 道徳

14

## 講演会後の感想

### 講演会①「学校におけるがん教育の推進」

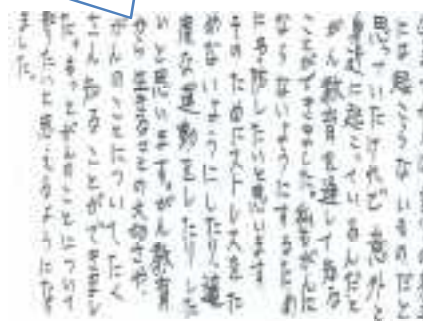
- ・ 生活習慣に気をつけたい
- ・ 早期発見・検診は大切
- ・ 2人に1人ががんになるのは悲しい
- ・ 誰もがなる可能性があるから勉強できてよかった
- ・ (保護者より)難しいのではと思っていたが、子どもたちの学ぶ意欲があり、今後このような機会を多くしてほしい

### 講演会②「“がん”のことをして、命を大切に」

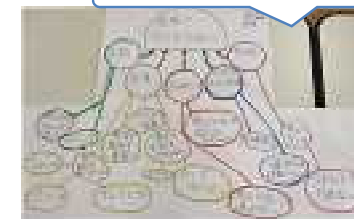
- ・ 1人で悩まない
- ・ あきらめない
- ・ 向き合う
- ・ 家族の大切さ
- ・ 家族は受け止めてあげる
- ・ 自分らしく生きる
- ・ 心のケア
- ・ 寄り添う
- ・ 笑うことも大切

## 総合的な学習の時間のまとめ

がん新聞(ふりかえり)



グループでまとめ

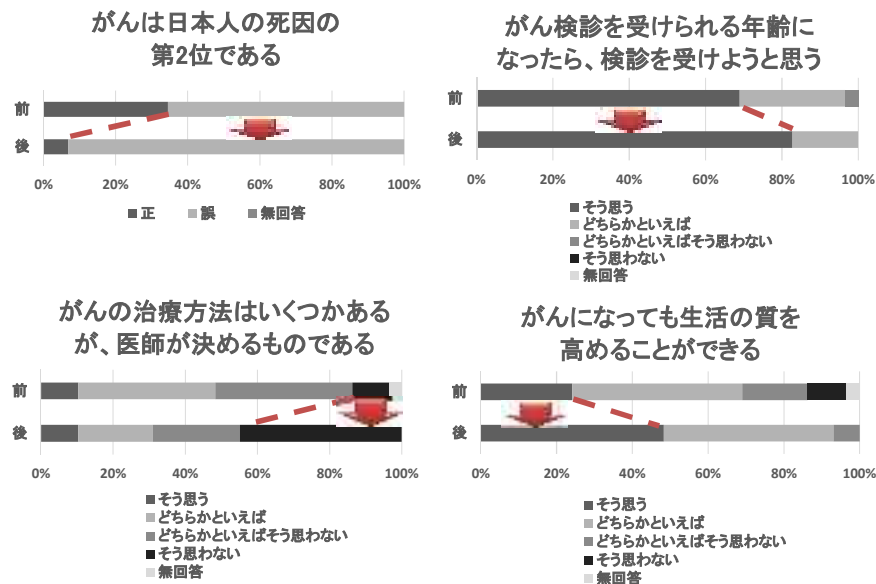


家族へアドバイスしよう



15

## 実施後の変容(アンケート結果より)



## 令和2年度 3年目の取組

### ○外部講師による講演会の実施

株式会社あべいすと  
理学療法士 安部 則行 氏・作業療法士 富本 紘之 氏  
講演内容：がんを知ろう  
参加者：6年生児童、教職員

### ○教科等横断的ながん教育の実施

コーディネーター 奥井 美穂 養護教諭  
① 総合的な学習の時間:知識+グループワーク  
② 家庭科「食事の役割」  
③ 体育科保健領域「病気の予防」

### ○教職員研修の実施

18

## 教科等横断的ながん教育の実施

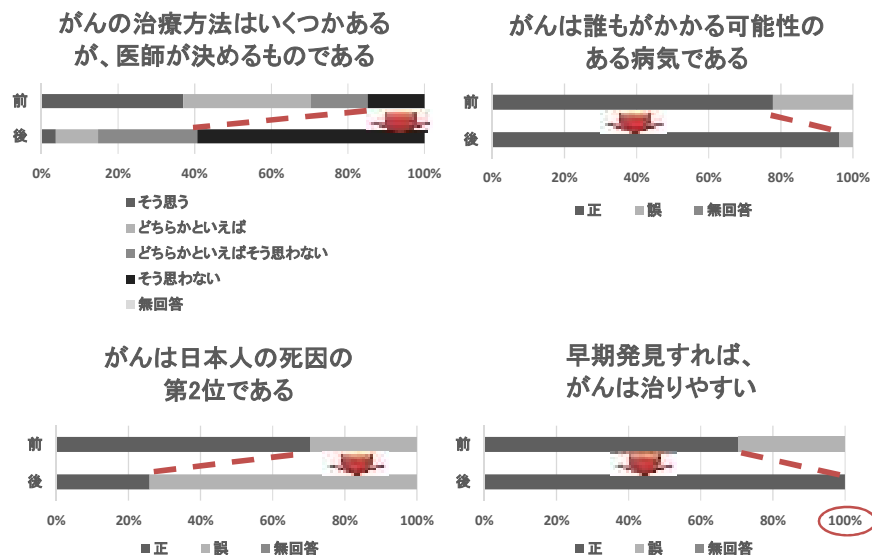


19

## 総合的な学習の時間後の感想

| わかったこと                                                                                                                                                                                                                                                                          | 大切にしていきたいこと                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• だれもがかかる可能性がある</li> <li>• 良い暮らしをしていても、遺伝等でかかったりする</li> <li>• ちょっとこわくなくなった。早期発見でちょっと安心</li> <li>• 寝たきりの人だと思っていたけど、違うかった</li> <li>• 早期発見が大事。検診</li> <li>• 一人がかかえてはいけない</li> <li>• すべての人ががんについて正しく理解することが大切</li> <li>• 自分らしく生きる</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生活習慣</li> <li>• 笑顔で生活する</li> <li>• 体調が悪い時は家族に相談、受診する</li> <li>• できる限りこわがらない</li> <li>• 大人になったら検診を受ける</li> <li>• 家族のたばこをやめてほしいので、話をする</li> <li>• 毎日自分らしく、毎日楽しく生きる</li> <li>• がんを正しく理解したことを忘れない</li> </ul> |

## 実施後の変容(アンケート結果より)



## 3年間の成果と課題

### 【成果】

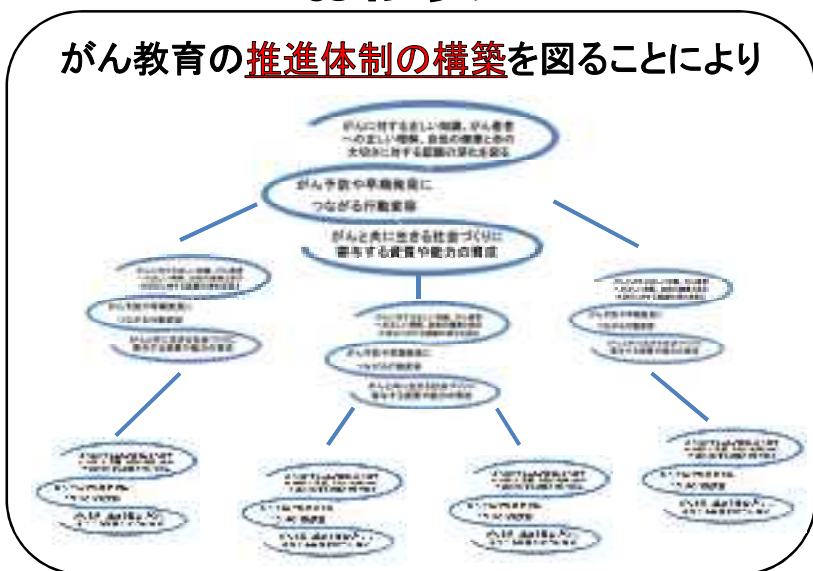
- がんに対する正しい知識、がん患者への正しい理解、自他の健康と命の大切さに対する認識の深化を図ることができた。
- がん予防や早期発見の行動変容につながる意見が見られた

### 【課題】

- どの学校でも継続して、確実に実施可能な取組
- 地域の専門家等と連携した取組
- 配慮が必要な児童への対応

## おわりに

がん教育の推進体制の構築を図ることにより



ご清聴ありがとうございました。



# がん教育の実践を通して ～中学校での取組について～

山口県教育庁学校安全・体育課  
指導主事 伊藤善夫

## 山口県のがん検診受診率



## 第3期山口県がん対策推進計画

### 基本理念

全ての県民が、がんに関する正しい知識を持ち、  
がん予防や早期発見に取り組むとともに、がん  
にかかっても安心して暮らせる地域社会の構築



- がんに関する理解の促進
- 県民総ぐるみで取り組むがん予防・早期発見の推進
- 患者の視点に立ったがん医療の充実
- がんにかかっても安心して暮らせる地域社会の構築



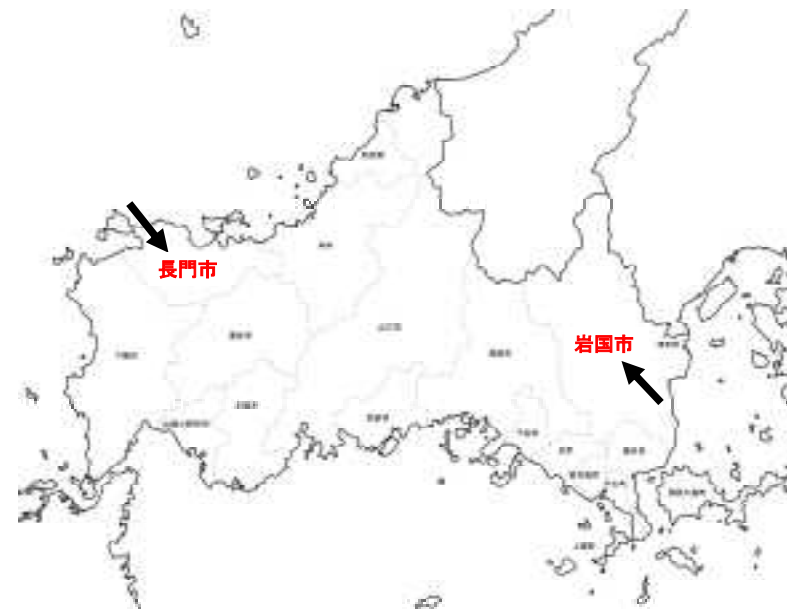
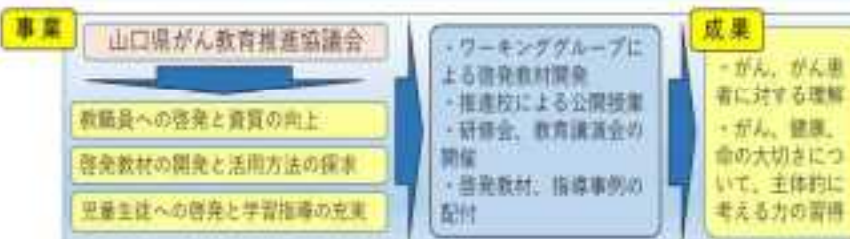
山口県HPより



## 学校におけるがん教育推進事業

**現状** 学校現場において、がん教育を推進している学校は少なく、多くの学校で生活習慣病との関連として扱われている。  
本県のがん検診受診率は、他県に比べて低い状況が続いている。  
県では「山口県がん対策推進計画（第3期）」が策定され、推進の柱の一つに「がんに関する理解の促進」を掲げ、学校の教育活動全体を通じたがん教育の推進が求められている。

**目標** ・がんについて正しい知識を学び、正しく理解することができるようにする。  
・自他の健康と命の大切さについて、主体的に考えることができるようにする。



## 令和元年度の取組～中学校

推進校 長門市立菱海中学校

- ワーキンググループ会議(8/5、8/23、9/11)
- 授業検討会(10/15)
- 公開授業および教育講演会(11/19)
  - 公開授業 山口県立大学准教授とのTT
  - 教育講演会 県内在住のがん経験者(フットサルプレイヤー兼コーチ)



## 公開授業(11/29) 第2学年 保健体育科

単元 「健康な生活と疾病の予防」  
～生活習慣病などの予防(がんの予防)～

本時のねらい

がんの原因や予防について正しく理解し、自他の健康と命の大切さについて主体的に考えることができる。

授業の展開

- がんの原因と予防について知る。
- 早期発見の重要性を知る。
- がん予防のためにできることを、3つの視点(自分・家族・地域)で考える。

## 令和元年度の成果と課題

### 成果

- がんの学習は重要であり、健康な生活を送るために重要な学習であることの理解が進んだ。
- 家族や地域にも、がん検診の重要性を伝えていきたいという意識が高まった。

### 課題

- 各学校におけるがん教育の推進を図る更なる授業開発。
- がん対策を担当する関係諸機関との連携の強化と外部講師の活用。

## 令和2年度の取組～中学校

### 推進校 岩国市立平田中学校

- ワーキンググループ会議(7/13、8/5)
- 授業検討会(11/20)
- 公開授業および教育講演会(11/30)  
公開授業 がん看護専門看護師とのTT  
教育講演会 県内在住のがん経験者  
(現役フットサルプレイヤー)



## ワーキンググループ会議

### 1回目(7/13)

推進校としては、2段階の授業構成を提案

1時間目・・・がんに関する基礎的な内容を学習

2時間目・・・発展的な学習

(生活の質、がん患者への理解と共生 等)

### 2回目(8/5 小中合同)

平田小学校、平田中学校合同で実施。長門市で行ったがん教育について全教職員に説明後、授業の方向性を検討。

メールで途中経過を確認。がん看護専門看護師からも助言をいただきながら、指導案を作成。

## 授業検討会(11/20)

- 前時に、がんに関する基礎的な内容について授業を行う。(公開授業はがん教育の2時間目)
- 資料は、文部科学省がん教育推進のための教材「8 がん患者のおもい」などを使用。
- 新型コロナウイルス感染症感染防止のため、がん看護専門看護師が授業に参加できない。



がん看護専門看護師は動画で参加。  
(事前に録画)



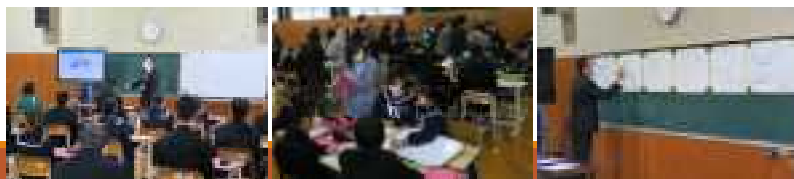
## 公開授業(11/30) 第2学年 保健体育科

### 単元 「健康な生活と疾病の予防」

～生活習慣病などの予防(がんの予防)～

本時のねらい

前時の授業で得たがんについての知識や見いだした課題を踏まえ、がん患者の思いに触れ、適切な関わりについて考える活動を通して、がんと向き合う人との共生に向けて自主的に取り組もうとすることが出来る。



## 授業の流れ ②

文部科学省ウェブサイトにある映像教材「がんと生きる」エピソード2視聴後、同じ質問をする。



生徒の意見の変容

全体を通して、「相手の心に寄り添う」意見が多くなった。

- 普段どおり接する。
- そばにすることが大切。
- がんについて調べることで、相手にかける声が変わる。

## 授業の流れ ①

主発問

あなたが大人になったとき、あなたの友人や家族が「がん」になったら、どのように接しますか？

発問当初の生徒の意見

- 優しい言葉をかける。
- 何かできること、助けになることがあれば聞く。
- 深刻な表情をせず、明るく接して前向きな話をする。

## 教育講演会(11/30)

演題 「がんを経験して」

県内在住がん経験者

(現役フットサルプレイヤー)

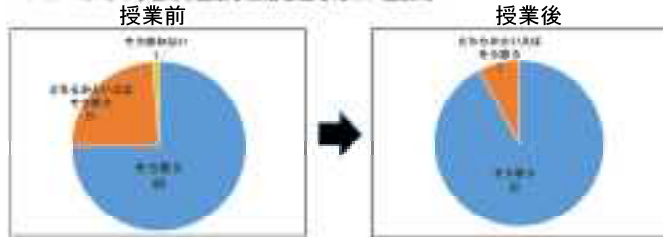


- 急性骨髄性白血病について
- 入院時・退院してから感じたこと
- 海外でプロとして活動した時のこと
- 現在、夢に向けて活動していること

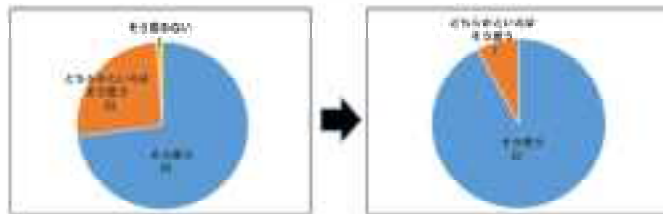
講師のがんに向き合う本心や、闘病中の様子、克服してからの活動から、授業で学んだ内容(がん患者にどう接するか)がより鮮明となった。

## 授業前後のアンケート①

〈1-a〉 がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ

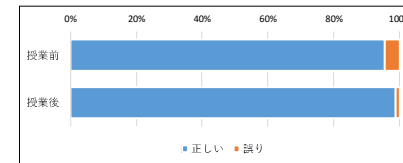


〈1-b〉 がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ

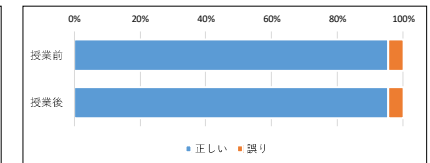


## 授業前後のアンケート②

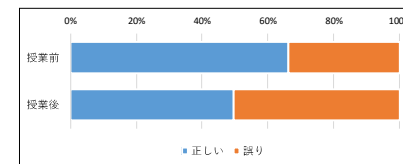
〈2-a〉  
がんは誰がかかると可能性のある病気である。



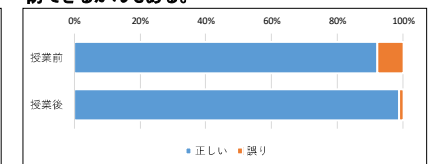
〈2-b〉  
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。



〈2-c〉  
がんは日本人の死因の第2位である。

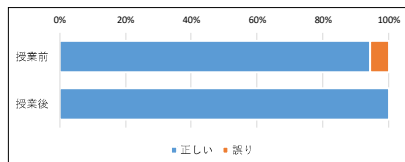


〈2-d〉  
たばこを吸わないこと、バランスよく食事すること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある。

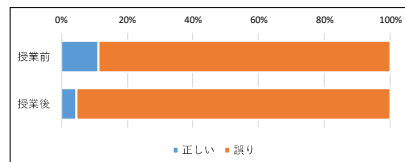


## 授業前後のアンケート③

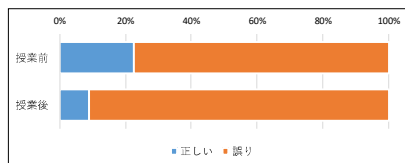
〈2-e〉  
早期発見すれば、がんは治りやすい。



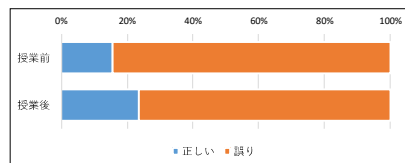
〈2-f〉  
体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い。



〈2-g〉  
がんの治療法には手術治療しかない。

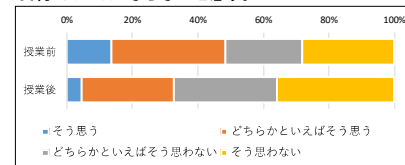


〈2-h〉  
がんの痛みは我慢するしかない。

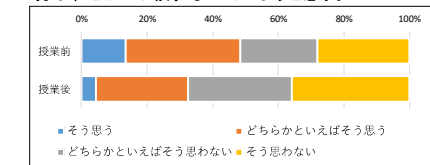


## 授業前後のアンケート④

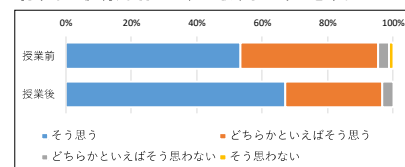
〈3-a〉  
自分はがんにならないと思う。



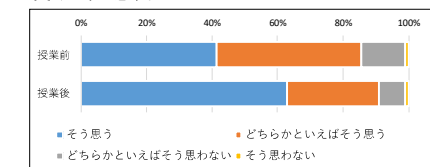
〈3-b〉  
将来、たばこは吸わないでいようと思う。



〈3-c〉  
日頃からバランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。



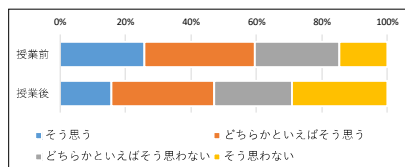
〈3-d〉  
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



## 授業前後のアンケート⑤

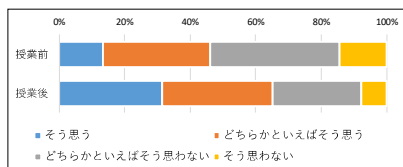
〈3-e〉

がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。



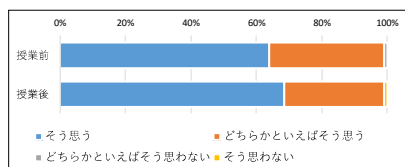
〈3-f〉

がんになっても生活の質を高めることができる。



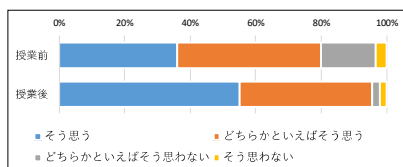
〈3-g〉

がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。



〈3-h〉

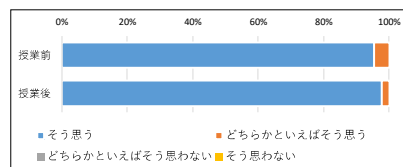
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。



## 授業前後のアンケート⑥

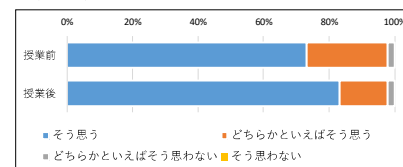
〈3-i〉

家族や身近な人が健康であってほしいと思う。



〈3-j〉

長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。



### 生徒の感想

- 自分ががんにならないためにも、生活習慣に気をつけたい。
- 病気になった人にとって、周囲に求める接し方や触れてほしい話題はそれぞれ違うと思うが、少しでも治るように、私ができる最善を尽くしていきたい。

## 成果と課題

### 成果

- 授業後にがん経験者の講演を聴くことで、学習内容を更に深めることができた。生徒や教職員のがんに対する考え方も変わった。
- 第1回ワーキンググループ会議から、がん看護専門看護師の助言を得ることで、教職員の疑問に答えながら授業づくりをすることができた。また、医療現場での患者や家族の想いを踏まえて授業を行うことができた。

## 成果と課題

### 課題

- がんに関する基礎的な内容の授業では、知識重視になりがちなので、主体的・対話的で深い学びとなる授業づくりの実践を行う必要がある。
- 外部講師のリスト拡大に関して、知事部局との連携を図りながら、拡充を図る必要がある。  
→知事部局と「がん教育外部講師のためのeラーニング」などの情報共有。

## 高等学校での実践



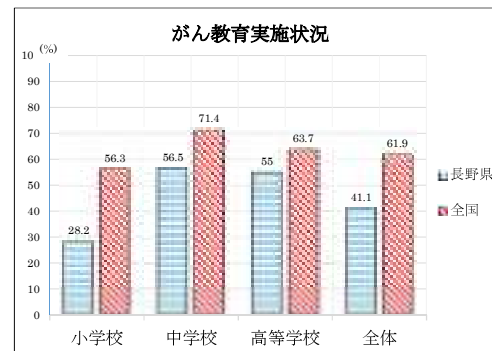
外部講師を  
積極的に活用した  
がん教育

がん教育の手引き 別冊  
令和3年2月発行予定  
長野県教育委員会

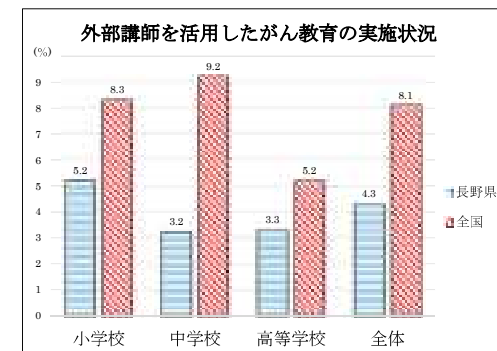
長野県教育委員会事務局 保健厚生課  
指導主事 三井 将志



## がん教育の実施状況調査結果



講師との打ち合わせを事前に行わないと、  
話す内容と学校の要望にギャップが生じる



年間指導計画に位置付けないと、指導時  
間の確保が難しい

平成30年度におけるがん教育の実施状況調査の結果について 平成31年（令和元年）実施 文部科学省

## 長野県の「がん教育」の4つの柱

柱1 健康長寿県としてのがん教育

柱2 全教育活動を通じたがん教育

柱3 小・中・高の系統性を重視したがん教育

柱4 校内及び地域専門機関・家庭との連携に  
よるがん教育



### 指導例 1

#### 単元名「がんと健康」

- 1 対象学年 (1学年) 教科・領域 (保健体育 科目保健)
- 2 指導形態 学級単位
- 3 外部講師 がん専門医

地域がん診療連携拠点病院のがん専門医であり、がん診療推進室 室長も務め、出前授業も実施し、がんに関する正しい知識の普及に取り組んでいる。

今回は、医療制度や具体的な治療法の疑似体験などを入れ、その情報をもとにグループディスカッションを行った。



## 講師と事前打ち合わせのポイント

### 学校のニーズ

生徒同士のディスカッションを取り入れて考えさせる時間を確保したい

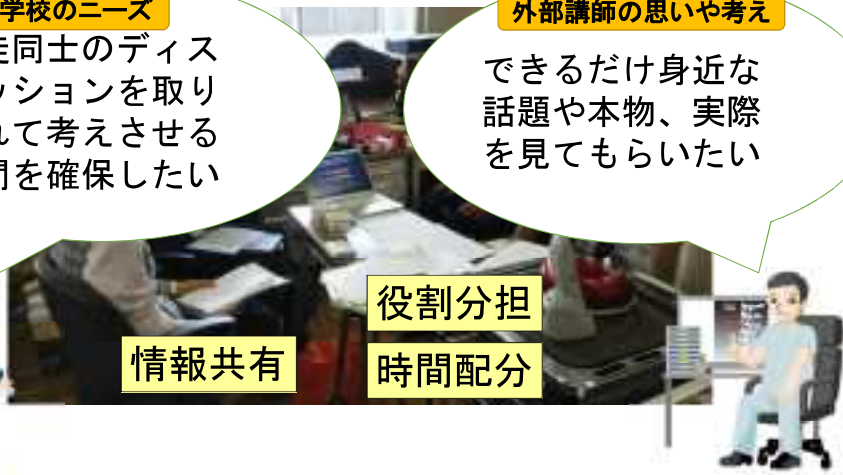
### 外部講師の思いや考え

できるだけ身近な話題や本物、実際を見てもらいたい

役割分担

情報共有

時間配分



## 保健体育(科目保健)4時間の第4時

ディスカッション1

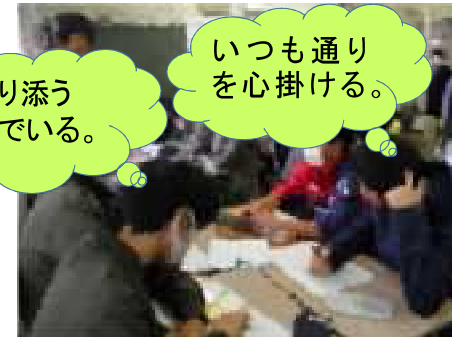
外部講師の講義・演習

ディスカッション2

まとめ



寄り添う笑顔でいる。



いつも通りを心掛ける。

「友人・家族ががんにかかったら」についてディスカッションをする。

## 外部講師の講義

直腸がんの手術により肛門を失った人が装着する「人口肛門(ストマ)」の疑似装着体験

生活スタイルを変えなければいけないのかな。



実際に生徒が手に取って、腰のあたり装着して授業を受けました。

## 外部講師の講義・演習



患者の心の問題

身近に悩んでいる人がいたら、しっかり話を聞くことが大切です。

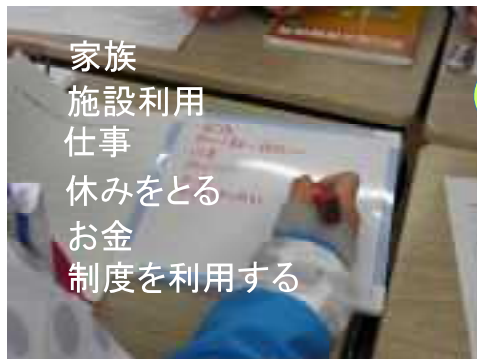
がんの治療法とがん治療の際の困りごと

がんになると収入が減る?



## ディスカッション2

「40代で自分が、がんにかかったら」についてディスカッションをする。



家族  
施設利用  
仕事  
休みをとる  
お金  
制度を利用する



自分が40歳なら親は70歳・・・、もし親の介護ができなければ・・・

## まとめ



誰でも気軽に相談できる支援センターがあります。(がんにかかっても相談ができますよ。)

## 指導例2

単元名「健康を支える環境づくり」

- 1 対象学年 (2 学年) 教科・領域 (保健体育 科目保健)
- 2 指導形態 学級単位
- 3 外部講師 がん専門医, 看護師, 薬剤師

地域がん診療連携拠点病院のがん専門医であり、がん教育外部講師としても活動をしている。

今回は、がんの発生の仕組みや予防・検診等の講義やがん患者をもつ家族などのケースをもとに考えるグループワークで助言をした。



## 生徒の感想より

- ・父親が病気をしたことがあるが、職やお金の面での不安がすごかった。しかし、会社は手厚いサポートをしてくれて、今も働けている。やはり、患者の精神面の安定を少しでも助けるために**雇用先の障害やがんに対する保障は必要**だと思う。
- ・治療後に普段と生活が少し変わったりすることもあると思うと、がんなどはなる前の予防はもちろんだけど、**治った後や、治療後にもたくさん問題がある**ことを知った。
- ・自分や身近な人ががんになったとき、どう対応したらいいのか、今は少し想像できない。今日の講義を聞いて、**一人で悩まずに、相談することが大切**だと改めて教わったので、**実践していきたい**と思う。

## 講師と事前打ち合わせのポイント

### 学校のニーズ

授業で考えたことを生活につなげていけるようにしたい。

### 外部講師の思いや考え

高校生から社会(地域や家族)に伝えられる活動は何か。どんなことができるか考えてもらいたい。



情報共有



ケーススタディの進め方や内容の確認



## 保健体育(科目保健)10時間扱い第2時

外部講師の  
講義



ディスカッ  
ション



発表  
まとめ



がんが発生する仕組み、がんの予防、検診、治療等の講義の後もアドバイスなどを行った

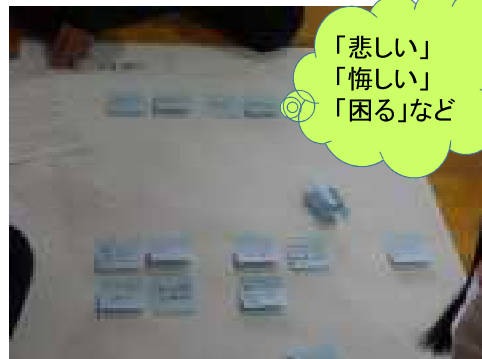
ディスカッ  
ション

何とかして  
あげたい。



Case. F

末期がんの祖父を支えていた祖母が急逝し、老人ホームに入った祖父から「早く死んでしまいたい」と告げられたケース



「悲しい」  
「悔しい」  
「困る」など

## がん患者と歩む ケーススタディ

Case. F

Hさんは80歳の男性。あなたのおじいさんです。映画が大好きで、小さい頃にはよく映画館に連れて行ってもらった記憶があります。

5年前に治すことのできない癌が見つかり、以来献身的なおばあさんの介護のもと、夫婦二人で穏やかな生活を送っていました。

ところがある日、おばあさんが急な病気で亡くなってしまいました。支えが必要なHさんは老人ホームに入所することになりました。

久しぶりに会いに行ったあなたに、Hさんはこう言いました。

「自分なんか早く死んでしまいたい」

発表  
まとめ

## グループ発表 がん患者と歩む



今日の話し合いが  
将来役に  
たつかもしれ  
ない。



## 生徒の感想より

- ・来てくれた先生が言ったとおり、**自分たちが正しい情報を広めて**、地域などのがんに対する思いが活性化すれば、少しはがんになる人が減ると思うし、そうなればうれしい。
- ・グループの話し合いでは、もし家族ががんになったら、自分は治療を受けてほしいと思うけど、**がんになった人の思いを尊重しなければならない**と思いました。
- ・私は早く治療することが一番だと思っていましたが、友達の意見を聞いて本人の意思を大切にということを書いて、確かにと納得することがありました。今日の授業のことを**これからの意思決定に役立たせて**いきたいです。

## 指導例 3

### 単元名「生涯を通じる健康」

- 1 対象学年 (2 学年) 教科・領域 (特別活動・保健体育 科目保健)
- 2 指導形態 学校全体・学級単位
- 3 外部講師 がん専門医

大学の医学部で、がん専門の若手医師の育成や診療・研究活動を行うかたわら、長野県がん教育推進会議のアドバイザーや県内の学校での講演活動等、がん教育の普及に努めている。

今回は、生徒の進路指導の内容も含めて講演を行った。



## 1年次

**保健体育(2時間) 科目保健**  
(1)現代社会と健康  
(ウ)生活習慣病などの予防と回復

学級単位  
(教科担任)

## 2年次

**特別活動(1時間)ホームルーム活動(2)**  
日常の生活や学習への適応と  
自己の成長及び健康安全 オ

保健講話  
(外部講師)

**保健体育(9時間) 科目保健**  
(3)生涯を通じる健康 イ

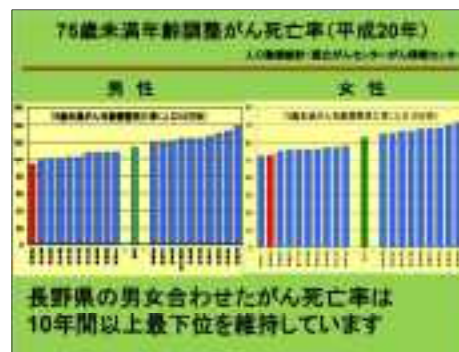
学級単位  
(教科担任)

学校の教育活動全体を通じた活動

## 講師と事前打ち合わせのポイント

**情報共有** 学校の特色、ねがう子どもの姿、進路、配慮が必要な生徒の確認 等

**保健講話「がんについて知り、学び、伝えること」資料の一部**



### 在宅医療に関わる医療人

- 在宅医
- 介護支援専門員(ケアマネジャー)
- 訪問看護士
- 薬剤師
- 理学療法士・作業療法士・言語療法士
- 介護福祉士・ヘルパー
- 訪問入浴業者
- 地域ボランティア など

## 保健体育(科目保健) 9時間扱い中の第2時



自己の健康管理や環境づくりに関わることから生徒がそれぞれの立場を想定

**立場: 市長**

**【調査結果】**

- ・受動喫煙は体に悪い。
- ・講演を聞いたらタバコは嫌だと思った。

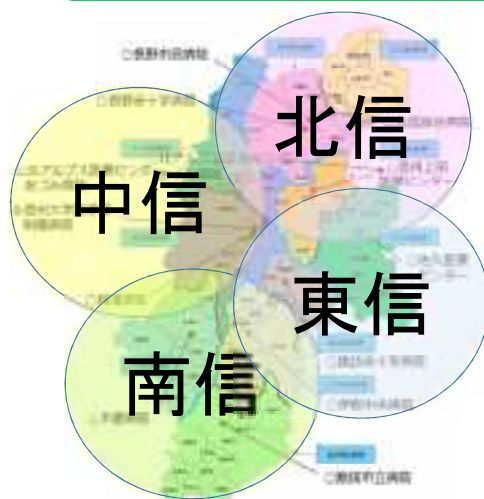
**【今後の方向】**

- ・タバコの有害物質の規制の強化
- ・喫煙所以外での喫煙を条例で禁止
- ・子供に対するがん講演を増やす。
- ・〇〇市を綺麗な町と売り出す。

## 生徒の感想より

- ・主に今日知ったことを周りの人にも知ってもらえるようにすることかなと思います。私の周りにも喫煙者が数人いますので、徐々にやめてもらえるよう**喫煙と発がんのリスクの関係を教えたいです。**
- ・今は**環境のおかげ**で正しい生活ができているが進学後は崩れてしまうかもしれないので意識したい。
- ・**医療系の職業に就きたい**と思っているのがん患者の人と出会ったときには「助ける」ということだけではなく、「**寄り添う**」ことを**大切に**してかかわっていけるようにしたい。

## 長野県のがん診療連携拠点病院等



|                      |     |
|----------------------|-----|
| ◆長野県の整備状況 (令和3年1月現在) |     |
| ◎ 県拠点病院              | : 1 |
| ○ 地域がん診療連携拠点病院       | : 7 |
| △ 地域がん診療病院           | : 4 |

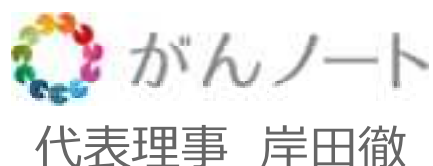
### 今後の方向

- 1 外部講師を活用するための体制整備
  - ・外部講師リストの更新
  - ・外部講師の紹介 等
- 2 各地域でのがん教育ミニ研修会の開催

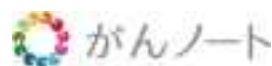
ご清聴ありがとうございました



# 令和2年度がん教育研修会・シンポジウム ＜患者外部講師の実践について＞

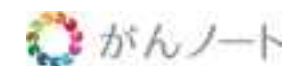


## 自己紹介＜岸田徹＞



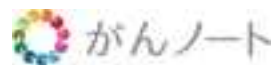
|                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>患者</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんノート代表理事</li> <li>・若年性がん患者団体STAND UP!!<br/>アドバイザー</li> </ul>              | <b>病院・学会</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立がん研究センター<br/>企画戦略局広報企画室</li> <li>・AYAがんの医療と支援のあり方<br/>研究会(AYA研) 理事</li> <li>・癌治療学会 PAL患者委員<br/><small>ペイシェントアドボケートリーディングシップ</small></li> </ul> |
| <b>行政</b> <p>厚生労働省</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんと共生のあり方検討委員</li> <li>・がん対策推進総合研究事業<br/>中間・事後評価委員</li> </ul> | <b>学校</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都など がん教育講師</li> <li>・東京医科歯科大学特別講師</li> <li>・昭和大学医学部客員講師</li> </ul>                                                                                |

## 本日お伝えすること



授業形式編  
マインド編  
準備編  
ハプニング編  
勉強編

## 授業形式＜がん教育＞



A

1限目  
先生の授業



2限目  
外部講師の授業

B

1限目  
外部講師の授業

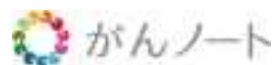


2限目  
ワークショップ

C

外部講師だけの授業

## がん全般



二人にひとり

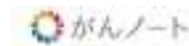
予防も大事



誰のせい  
でもない

がん相談  
支援センター

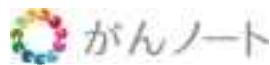
## マインド編＜がん教育＞



- ・ 今日子どもたちに  
「何」を持ち帰って欲しいか考えよう
- ・ 無理に明るくしなくていいが、  
「暗くしすぎない」ようにしよう
- ・ 子どもたちの「目線」に合わせよう

- ・ 学校担当者と「**打ち合わせ**」は必ず行う
- ・ 学校側から、がん教育があることを  
保護者へ「**通知**」などで伝えてもらう
- ・ 「**配慮すべき生徒**」がいるか確認する
- ・ 写真を使う場合、闘病時の写真は  
「**注意**」が必要

8



### ハプニング編

- ・ 想定外の出来事があっても「**動じない**」
- ・ 養護教諭と事前に「**連携**」しておく

### 勉強編

- ・ 全国がん患者団体連合会さんの  
「**がん教育における配慮事項ガイドライン**」  
「**e-ラーニング**」を活用してみる

9

お気軽に質問などください！



@kishidatoru